プリンさまッ！！！！！

福壱柚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
プリンさまッ！！！！！

【Ｎコード】
Ｎ５３４６Ｄ

【作者名】
福壱柚

【あらすじ】
ごく普通の中学生。佐滝柚はある日ゴミ捨て場から捨てられた一枚のお皿を拾ってしまう・・・・

プロローグ

もしもオレがあの時

母さんのゴミ捨てを手伝ってなかったら

今よりずっと

ずっと

幸せだった

神様・・・もしもいるのなら

あの人

いや

あのプリンと出逢う前にして下さいッ！！！！！！！！！！！

プロローグ（後書き）

今回は『輪廻』とはまた一味ちがう、ギャグ中心の作品にしていきたいです♪

応援よろしくおねがいします。。。

一話　早起きは三文の得・・・んqのか？

青空に雲ひとつな晴天。そこに風が静かに流れる
オレはそんな爽やかな風で目を覚ました。

今日も一日いい日になりそう・・・そんな言葉はこんな日に言う言葉なのだろう。

オレはまだ起きない頭で階段を下りて、キッチンまで行った

「あれっ、柚(ゆず)今日は早起きなのね」
「まぁね。なんかいい天気だったし」

冷蔵庫から牛乳を取り出し、いっきに飲み干す

「じゃぁ柚くん。母さんいま手が離せないからゴミ捨てに行ってきてくれないかな？」

にこっと母さんは笑いながらオレを見る。
いつもなら嫌がるオレも、今日は天気が良かったから

「いいよ。でもちょっと遅くなる」

気分転換に散歩でもしながら行こうと思った

「ありがとう。やっぱり柚くんはやさしい♪」
「はいはい。ありがとさん誉めてくれて」

オレは急いでゴミを持って玄関を出た

＊

「きっもちぃぃぃ♪」

すぅっと大きくオレは息をすった。涼しい風が肺の中に通る。
そういえば・・・こうやって散歩するなんて久しぶりだなぁ。たしか最後にした時は・・・・いつだったけ？あぁ・・オレの記憶って・・・こんなにも脆いだ・・・ハァ
えーと・・・たしかごみ捨て場って・・この角を右で・・・あった
ゴミ捨て場までたどりつくと、オレは両腕にある、生ゴミ（けっこう臭い）を急いでネットにかぶせてたち去った
ゴミ捨て場は二つの仕切りによって分かれていて、赤のネットが生

ゴミで、黄色いネットが燃えるごみ、燃えないごみなのだ
オレはふと、黄色いネットのそばにおいてある新聞紙につつまれて、ヘンな紙がひっついているものに心ひかれた

「なんだこれ？しかもなんか書いてあるし・・・・」

―このごみを拾ったかたは実に幸運の持ち主ですッ☆これは持ち帰ったものが幸運になれると言うありがたぁーい皿なのデス（＾ｗ＾）でもでもぉ、このごみをひろったものはもう二度とこのゴミを捨てることは出来ませんｖＶ運命はあなたの手の中にあるのです♪―

疑問その一。この皿はひろった人が幸運になれるなら、なぜそれを捨てる必要があるのか。
疑問その二。捨てることができないのなら、何故ごみ捨て場にあるのか
疑問その三。運命は（略）ってなんのことか分からない

よってオレの結論

ぜってーヤバイ！！！これはオレが生きてきた中での経験か言えること。絶対ろくなことはないッ！！！
ほら、触らぬ神にたたりなしって言うじゃんか。さっさと返して散歩しよう♪

オレは手に持っていた皿《危険ブツ》をもとの所に置こうとした時

「コラァァァァ糞ガキ！！！今日は陶器を捨てる日じゃねぇよ」

「・・・・はい？」

ちょっとヤンキーが入ってるお兄さんがオレの手元を見て言った

「今日は陶器を捨てる日じゃねーんだよ。」

「いや・・・・なんでオレに・・」

これはオレのゴミじゃないとぼそっとつぶやくと、ぴくっヤンキーお兄さんの眉が上がった

「言い訳なんざききたかねぇんだ！！とっと家にかえれィィィィィィ！！！！！！！！」

ドンッとコンクリートの壁を叩きつける

ぱらぱらとコンクリートの破片が落ちてきたのは見なかったことにしよう。

オレは怖さのあまり

「すっ・・スミマセンでしたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ」

ダッシュで逃げた。

＊

さてどうしたものか。。。
オレは怖さのあまり危険物《お皿》をもってきてしまった。一応今はオレの部屋にいるから母さんに見つかることはないけど・・・・・

「まぁ・・・とにかく開けてみるか」

厳重に巻かれている新聞紙を一枚一枚ていねいにはがしてゆく。
・・なんか緊張する

どんどんはがしていって最後の一枚目。

「あれッなにか書いてある」

赤い字で多分いそいで書いたらしく、汚くて読みずらかった

―グッドラック

なにが？オレはこの紙につっこみを入れたくなった

最後の一枚に手をかける

ビリリリッ

豪快に剥がすと中には

「・・・ただの皿ぁ？」

肩が落ちる。変な色をしていると思った皿は以外と綺麗で、傷ひとつなく、真っ白だった。

オレはベットの上に寝転ぶと皿を横においた

「ったくなんだよ、これ捨てる必要ないじゃん。」

「だろ？我輩はキレイ好きだからな」

「ははは。そーなんだ」

「そーだぞ」

ん？

なんでオレは会話しているんだ？

この部屋にはオレしかいな・・・・・・・

「ん？我輩の顔になにかついているのか？」

おそるおそる横を見る

皿の上に・・・ひげのはえた・・・・・

「うわァァァァァァァ！！！！！プリンのお化けェェェェェェ！！！！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5346d/

プリンさまッ！！！！！

2010年11月18日14時31分発行